

スーパー耐久シリーズ 2026 開幕戦 もてぎ 95号車 SPOON リジカラ CIVIC は 0.297 秒の僅差で優勝



3月21日(土)～22日(日)、栃木県のモビリティリゾートもてぎ(4.801km)でENEOSスーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第1戦もてぎスーパー耐久が開催され、95号車「SPOON リジカラ CIVIC」(小松一臣/小出峻/三井優介)は、ST-2クラス5位から決勝をスタート、小出、三井、小松、小出とつなぎ、83周目に首位に立つとそのポジションを死守し、0.293秒の僅差でフィニッシュラインを通過、幸先のよい2026年シーズン開幕戦となりました。

開幕戦の決勝レースは2クラスに分かれ、21日と22日にそれぞれ4時間レースとして実施されました。95号車「SPOON リジカラ CIVIC」は22日決勝のレース2に出走、天候はレースウィークを通して好天に恵まれ、22日の決勝レーススタート時点では気温14度と春らしい絶好のコンディションとなりました。

スタートドライバーの小出は、オープニングラップで2台をパスして3位に浮上すると13周目には2位へ、そして23周目には首位へとポジションをアップし、34周目に1回目のピットイン。三井への交代とフロントタイヤ交換および燃料補給を済ませてピットアウト、3位でコースに復帰しました。三井も久々のツーリングカーながらアグレッシブなドライビングをみせて39周目には2位に浮上するとその順位をキープし、2回目のルーティンピット予定の69周目直前にFCY(フルコースイエロー)が、その後SC(セーフティカー)が続いて導入されたため、各クラスの上位陣にも変動が見られる中、95号車は予定通りピットイン。燃料補給とフロントタイヤを交換して小松がピットアウト。小松はベテランらしい落ち着いた走りでも3位から2位へ、そして83周目には首位へのポジションアップに成功しました。そして3回目のピット予定の直前にはまたしてもこの日2回目のFCYが導入されますが、95号車は予定通り97周目にピットイン、燃料補給のみで再び小出のドライブでピットアウト。2位に僅差ながら首位を守ってコースに復帰しました。小出はテールトゥノーズまで迫る7号車 ランサーEVOと225号車 GR ヤリスを相手に必死の攻防を見せますが、ラスト3周あたりから95号車に白煙が発生。当初その白煙は右後方付近で発生しているようでしたが、次第に濃くなり、ファイナルラップではエンジンフードのエアアウトレット部から大量に吹き出しはじめました。ここで猛追していた7号車がバックストレートでストップ、小出は瀕死状態の95号車を必死にコントロールし、続いて迫る225号車も抑えきり、0.297秒差でコントロールラインを通過。2024年最終戦以来の優勝を飾りました。

原剛チーム監督コメント

「レーススタート時は、決勝ラップがトップ2と比べると、每周コンマ3秒ぐらい遅かったので、あとはもうタイヤの交換回数を減らしてプッシュして行くしかないという作戦に切り替えました。最後は、小出が残り30分間をタイヤ無交換で走り、最後の最後はタイヤが相当厳しい状態だったはずですが、なんとか抑えてくれて助かりました。煙については、オイル系の配管が何かからのリークだと思われそうですが、次回に向けて対策しておく必要があります」

小出峻コメント

「いやーもう大変でしたよ。これまでで一番大変なのが最終ラップでした。タイヤもきつかったし、後からかなりのペースで迫られていたし。それに加えてちょっとエンジンの問題もあったので、心配でしたがギリギリなんとか踏ん張れて良かったです。まあそういう中で優勝できたのは本当にチームの皆さんのおかげだと思います。このレースは僕たちが勝ったと胸張って言えます」

三井優介コメント

「チームの成長をすごく感じていますし、一人ひとりの頑張りも感じています。チームのみんなに感謝しかないですね。小松さんのステイントも本当に何ひとつも不安もなく全力で応援できたので、それはすごく良かったです。やっぱり開幕で勝つっていうのはとっても良いことですよね。この流れで、シリーズチャンピオンに向けて頑張っていけたら良いと思います」

小松一臣コメント

「長いステイントだったけど、慌てず無理なく走れました。僕のステイントで逆転クラストップに立てたのは、あそこで抜ければ前に引っ張られるし、ペースもできます。それはそれで戦略的に良いと思い、相手が見える位置で仕掛けようと考えてプッシュしました」

第2戦は4月18日～19日に鈴鹿サーキットで5時間レースとして開催されます。